

## 血液検査室から発信する付加価値を！～システム関連～

◎塩川 一樹<sup>1)</sup>  
静岡市立清水病院<sup>1)</sup>

今日では、依頼された検査業務だけをするのではなく、血液検査データの情報から追加検査の必要性の有無を確認し、他部門と連携して得られる結果を総合的に考える力量も必要です。また、検査データをより良く活用するためのシステム構築など、検査データに付加価値を付け臨床側に役立つ結果を報告できる事が、血液検査技師の役割であると考えます。

また、教育関連においても、個人の力量の評価、学識レベルの維持へ、どのように取り組んでいくかも重要な課題です。

本企画では、検査データに付加価値を付ける取り組みとして、血液部門以外の部門との連携を重視した事例報告と、血液検査技師育成の取り組みについて報告していただきます。

今回の部門企画を通し、今後の血液検査技師の役割について、皆様方と一緒に考える機会にしたいと思いません。

座長 大橋 勝春 独立行政法人 地域医療機能推進機構 三島総合病院  
山崎 貴子 公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院

## 演者 1. 血液検査室から発信する付加価値を！

輸血・血液の連携 杉田 拓海 黒部市民病院  
生化学・血液の連携 広瀬 逸子 社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院  
システム・血液の連携 塩川 一樹 静岡市立清水病院

## 2. 技師育成の取り組み

若手技師の育成 佐藤 聖子 藤田医科大学病院  
臨地実習の取り組み 石田 真理子 国立大学法人岐阜大学医学部附属病院

## 3. 総合討論